

科目ナンバリング		U-LAS04 10001 LJ47							
授業科目名 <英訳>		教育学Ⅰ Pedagogy I				担当者所属 職名・氏名		教育学研究科 准教授 広瀬 悠三	
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)		教育・心理・社会(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	水1		配当学年	全回生	対象学生	全学向
（教育学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）									
【授業の概要・目的】									
教育を成り立たせている根本の一つに、信頼がある。教師と子どもの間に信頼の関係がなければ、子どもは教師のことは聞くことはなくなるだろうし、また教師も子どもに教えることを無意味な行為とみなすかもしれない。このような教育・人間形成の場における信頼は、教師－子どもの関係において見いだされるのみならず、子どもどうし、また教師どうしや、教師と保護者、さらには広く社会における様々な人間や存在にまで見出されるものである。このように信頼は教育や人間形成にとって、重要性を有している一方で、いかに信頼関係を築くことができるか、といった方法論が盛んに論じられ、そもそも教育・人間形成に見られる信頼とはどのような内実と意味をもっているのかは、十分に考察されていない。それゆえ、本講義では、教育・人間形成における信頼を、信頼研究の豊かな知見を踏まえながら、包括的に検討することを試みたい。このようにすることで、教育・人間形成に含まれる不思議さと神秘さに触れるとともに、新たな教育を構想する礎を築きたい。									
【到達目標】									
教育における信頼について、その内実と意義を理解し、批判的に考察することができる。 教育関係論の現状と課題を理解し、新たな教育関係について考察することができる。 教育を成り立たせているものについて、教育関係論を踏まえて、批判的に考察することができる。									
【授業計画と内容】									
授業は概ね以下のように進める予定であるが、受講者の関心や理解度に応じて、内容や内容を扱う順序を変更することがある。 第1回：オリエンテーション 第2回：教育関係論の源流：ノール、ブーバー 第3回：教育関係論の現状 第4回：信頼するとはどういうことか 第5回：信頼の源泉：赤ちゃんが生きてということ 第6回：教育学における信頼の特異さ：非対称的人間形成力としての信頼 第7回：もう一つの信頼：水平的な教育・人間形成的信頼としての友情 第8回：前半のまとめと討論 第9回：空間的信頼：事柄への信頼と自己への信頼 第10回：信仰することと信頼すること 第11回：日本思想・儒教思想における信頼の源泉 第12回：風土における人間形成としての信頼 第13回：世界を信頼するということ 第14回：まとめと全体討論 第15回：フィードバック									
----- 教育学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓ -----									

教育学Ⅰ(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

【評価方法】

授業の参加に基づくコメントペーパー（70％）と最終レポート（30％）により、総合的に評価する。

【評価方針】

教育学部・教育学研究科の成績評価の方針に従って評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

小山虎（編）『信頼を考える—リヴァイアサンから人工知能まで』（勁草書房、2018年）

鈴木晶子・山名淳・駒込武（編）『教職教養講座 第2巻 教育思想・教育史』（協同出版、2018年）

矢野智司・井谷信彦（編）『教育の世界が開かれるとき—何が教育学的思考を発動させるのか』（世織書房、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

本授業での学びを生かして、他の様々な授業や読書等から得る知見を横断的に見渡し、接続させるよう努めるとともに、信頼についてつねに問題意識のアンテナを張り、批判的に考察を深めるよう心がけてほしい。

[その他（オフィスアワー等）]

面談については、メールで予約の上、随時受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[主要授業科目（学部・学科名）]